

2021 10/12

No.2148

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



秦野市で9月26日夜、コロナ禍の収束を願う花火740発が丹沢の山並みを背景に打ち上げられた。中止された「秦野たばこ祭」の代替行事。



## contents

視点点描	3
井戸掘り1年の先に	

講演録	4
2021総選挙シンポジウム	

コーディネーター  
 パネリスト 共同通信社論説委員長 鈴木 博之  
 共同通信社政治部長 山根 士郎  
 政治部与党キャップ 堀江 崇之  
 政治部野党キャップ 橋本 昌明

講演録	8
総理番記者が見た自民党総裁選	

神奈川新聞特別編集委員 総理官邸担当 有吉 敏  
 進行・神奈川政経懇話会事務局長 小松 裕史

国際	12
日本だからできる関与を探れ	
陥落から2カ月のアフガン	

社会	16
水環境、自然の力で「浄化」する	
これからの水づくり	

政治双眼鏡	18
党外世論を押しつけた総裁選	

風人来人	19
白旗の野を前に	

くらし2021	20
不織布マスクと換気が重要	

アジアの風	22
「イカゲーム」大ヒットの裏にあるもの	

NNAアジア経済レポート	23
--------------	----

### 事務局だより

◇2021年10月定例講演会  
 10月25日(月)午後1時30分～3時  
 新横浜プリンスホテル4階「千鳥」  
 講師はWill Lab代表取締役女性活躍推進アドバイザーの小安美和氏  
 演題は「アフターコロナの働き方改革～多様な人材を活かす～」  
 ※新型コロナウイルスの感染状況によっては開催を延期する場合があります。

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎ 045 (226) 2121。

# 視点 点描



## 井戸掘り1年の先に

地元選出の菅義偉前首相を巡る政局で全国ネットのニュースや情報番組に生出演する機会に浴した。テレビ5本、ラジオ4本。関心は横浜市長選から菅さん退任表明、行革担当相・河野太郎さんの総裁選出馬へとめまぐるしく移った。

大派閥寄りで見られがちな政治評論家が多い。しかし、打ち合わせやCMの合間でのやりとりでは大方が菅さんに同情。印象に残ったのが故事として聞く「井戸を掘った人への感謝」を巡る解釈だった。なぜ感謝しなければならぬ？「掘る時には井戸はなく、のどを枯らして働く」から。菅さんの1年とだぶる。

前の首相が2度目の病で倒れ急きよバトンタッチ。1年延期した東京五輪・パラリンピックの開催は至上命令だった。新型コロナ治療薬どころかワクチンのめども

たのが故事として聞く「井戸を掘った人への感謝」を巡る解釈だった。なぜ感謝しなければならぬ？「掘る時には井戸はなく、のどを枯らして働く」から。菅さんの1年とだぶる。

前の首相が菅さん再選に前向きではなかったことは残念だ。元総

立っていない。神奈川新聞とtvkとの年頭インタビューでは「アケセルとブレーキを同時に踏んでいる感じ」と日々を説明した。突撃型の河野さんですら「1日70万回が限界」としていたワクチン接種の百万回を達成。批判を浴びつつ東京五輪・パラを挙行した。そして「総裁選とコロナ対策の両立には、ばく大なエネルギーが必要」と再選不出馬を表明。ほどなく感染者数は減少に転じ、退任から1週間を切った9月30日、緊急事態宣言は解除された。感染減がもう1カ月早かったらと思う。

井戸の出来や不出来、作業工程などに批判はある。ただ菅さんがこの1年、のどを枯らし青息吐息で掘っていたのは事実だ。これから井戸でのどを潤す人たちは忘れないでほしい。

務相・高市早苗さんを推す。総裁選後、「高市さんを通じ本来自民党はどうあるべきかを訴えることができた」と総括。菅さんでは「本来自民党」を訴えられないと躊躇したのかもしれない。国家観こそが井戸より尊いに違いない。

振り返れば菅政権は「桜を見る会」「森友学園」「日本学術会議」などの問題に苦しんだ。桜や森友はまさに前の首相の問題そのもの。学術会議は政権交代時の申し送り事項だったと聞く。総裁選結果を受け前の首相を巡り「3度目の登板」が語られる。その可能性はあるかもしれないが「井戸を掘った人」を邪険にすれば世論からは見放されよう。もともと47都道府県で37勝という数字も意に介さぬ「本来自民党」は、そんなことは気にも掛けまい。

(神奈川新聞特別編集委員 有吉 敏)